

鳥羽八代神社の神宝 2

神島八代神社の神宝を『紀要2004』に続き紹介する。

古墳時代の遺物

鏡 画文帯神獸鏡、四神二獸鏡各1がある。画文帯神獸鏡については早くに紹介がある(澄田正一1963)。

金属器(図36・38) 頭椎大刀2組(図38-1~7)、足金物(図36-11)などがある。頭椎大刀は柄の造りには畦目式(38-1)と無畦式(38-5)があり、7つの部品がある。前者の把間には金銅板打ち出しによる文様がある。後者には後補の木を芯とした八角形はばきの金銅製品(38-6)を付すが、これは鞘の可能性もある。他に祖はばきの可能性のある製品など(36-9)。

土器(図37-1)須恵器坏Hの破片がある。TK10であろう。

8・9世紀代の遺物

鏡 伯牙弹琴鏡1、海獸葡萄鏡1、小型海獸葡萄鏡6、花卉双蝶八花鏡1、素文小鏡5など小鏡計21面がある。小型海獸葡萄鏡、素文小鏡は同範品が各地にあり(中野政樹1972)、興味深い遺物である。

金属器(図35・36) 装身具、紡織具、容器、馬具などがある。紡織具は『紀要2004』に述べた。帯金具2点は巡方

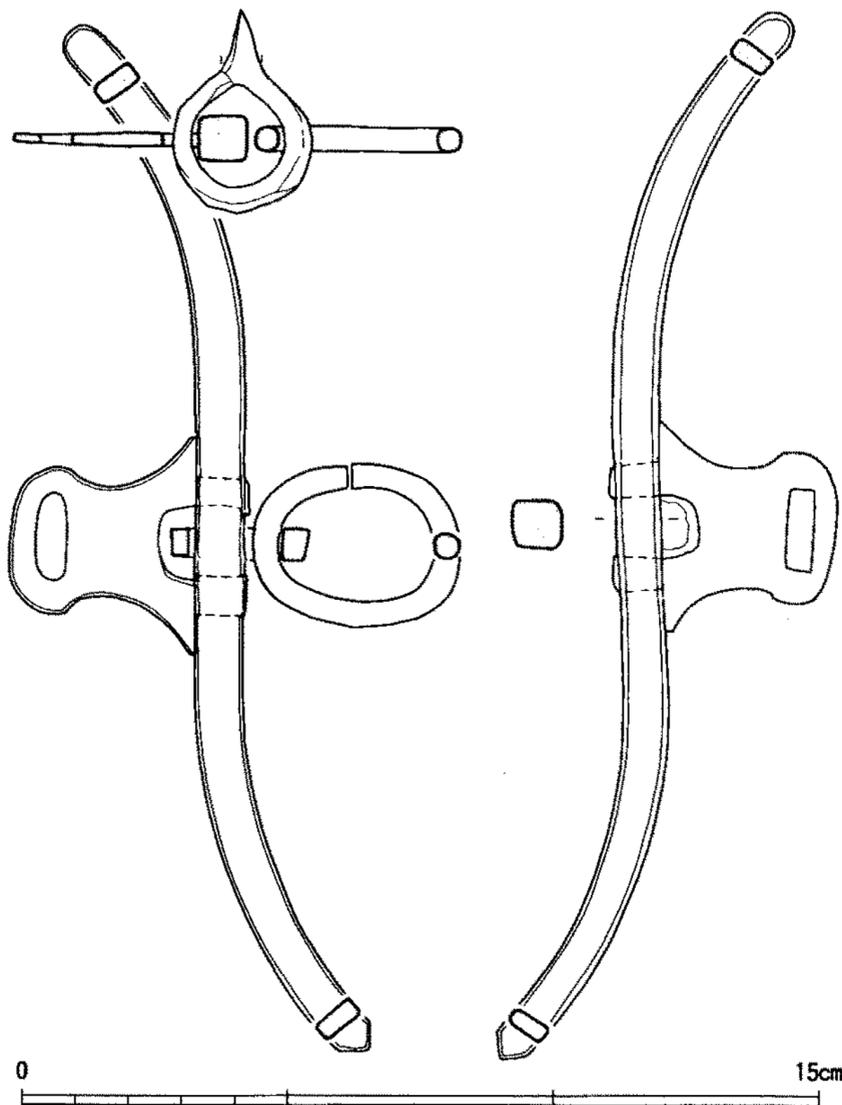


図35 鎌轡の実測図 1:2

表5 八代神社神宝の時期別内訳(時期区分は目安である)

I	古墳時代の遺物
鏡類	画文帯神獸鏡1, 四神二獸鏡1,
金属器	頭椎大刀2組?, 足金物1,
土器類	須恵器坏1
II	8・9世紀代の遺物
鏡類	伯牙弹琴鏡1, 海獸葡萄鏡1, 小型海獸葡萄鏡6, 花卉双蝶八花鏡1, 素文小鏡5など小鏡計21面
金属器	金銅製帯金具(巡方)2, 青銅鈴1, 金銅鈴1, 金銅製櫛1, 金銅製杖2, ミニチュア銅鏡1, 鎌轡(銅製S字形鏡板)1対, 鉄金具等3
土器類	奈良三彩小壺1
III	10世紀以降の遺物
鏡類	瑞花双鸞五花鏡1, 瑞花双鸞五花鏡1, 瑞花五花鏡1等計73面
金属器	金象嵌獅嚙文鏡形1, 青銅鈴1, 鉄鈴2, 経筒蓋2, 円板他2
土器類	青白磁合子2, 灰釉器台2, 小型杯2, 花瓶1, 小壺3(1は蓋付), 注口付壺1, 注口付鉢1, 蓋および鉢2, その他1,
IV	その他
	宋銭1, 念珠玉15, 懸仏1, 土鈴1,
	調査期間: 1975年10月21日~23日
	参加: 佐藤興次・西 弘海・吉田恵二・井上直夫・金子裕之

であり、表金具には方孔があり、表に鍍金痕跡がある。鑄造の鋌足4本が残るが、裏金具は失う。鈴は鑄造による鍍仕上げの製品(36-4)、銅板を叩き延ばしによる金銅製品がある(36-6)。容器は超小型の高台つき坏である。復原口径2.7cm、高さ0.7cm。馬具は鎌轡ひょうかつ1対がある(図35)。鏡板が断面隅丸長方形を呈したS字あるいはF字形を呈する型で、立聞と銜の一部、引手が揃む遊環がのこる。表面の仕上げは丁寧である。全長20.3cm。類例は長野県岡谷市コウモリ塚古墳例などにある(宮坂光昭1983)。

土器(図37-2) 奈良三彩の小壺である。推定口径4.5cm。

10世紀以降の遺物

鏡 和鏡の類で数が多く、瑞花双鸞五花鏡1、瑞花双鸞五花鏡1、瑞花五花鏡1、湖州鏡1など計73面がある。

金属器(図36) 武具や経筒など。武具は兜の鍔形で、金象嵌獅嚙文である。文様は異なるが鍔形の類例は後白河上皇の法住寺殿例(江谷寛1996)など。経筒は蓋(36-12・13)が2点ある。最大径は6、12cmで、表面に鍍金が残る。他に円板が2点ある。経筒底板か。青磁合子や湖州鏡もあり、神島における経塚の存在を示すのであろう。

土器(図37) 12・13世紀に下る陶磁器類がある。図示した遺物が全てである。青白磁合子(37-16・17)、灰釉器台(37-6・7)、器台付属品の小型杯(37-4・5)、花瓶(37-3)、小壺(37-8・9・10)、注口付壺(37-12)、注口付鉢(37-11)、蓋および鉢(37-13・14)、つまみ破片(37-15)などがある。

以上、神宝を構成する遺物は時代、品目など種々がある。本来の「神宝」に古墳および経塚の出土品やその他が加わり、現在の姿になったようである。主題となるのは8・9世紀および、12・13世紀代の神宝である。八代神社の神宝は全貌が明らかでないこともあってか、神宝の意義が過大評価の傾向にある。ここでは唐式鏡・和鏡の類と兜鍔形の図を除き、主要なものを掲示した。8・9世紀代には優品があるが数量はそれほどでもなく、意義が改めて課題となろう。これを契機に冷静な論議がおこなわれることを期待したい。(金子裕之)

江谷寛1996「法住寺殿」『平安京提要』角川書店、585-592頁、特に589頁。澄田正一1963「伊勢湾沿岸の画文帯神獸鏡について」『近畿古文化論攷』吉川弘文館、185-198頁。中野政樹1972「奈良時代における出土伝世唐式鏡の基礎資料および同範鏡の分布とその鑄造技術」『東京国立博物館紀要』第8号。宮坂光昭1983「コウモリ塚古墳」『長野県史考古資料編(3)』1061-1065頁。

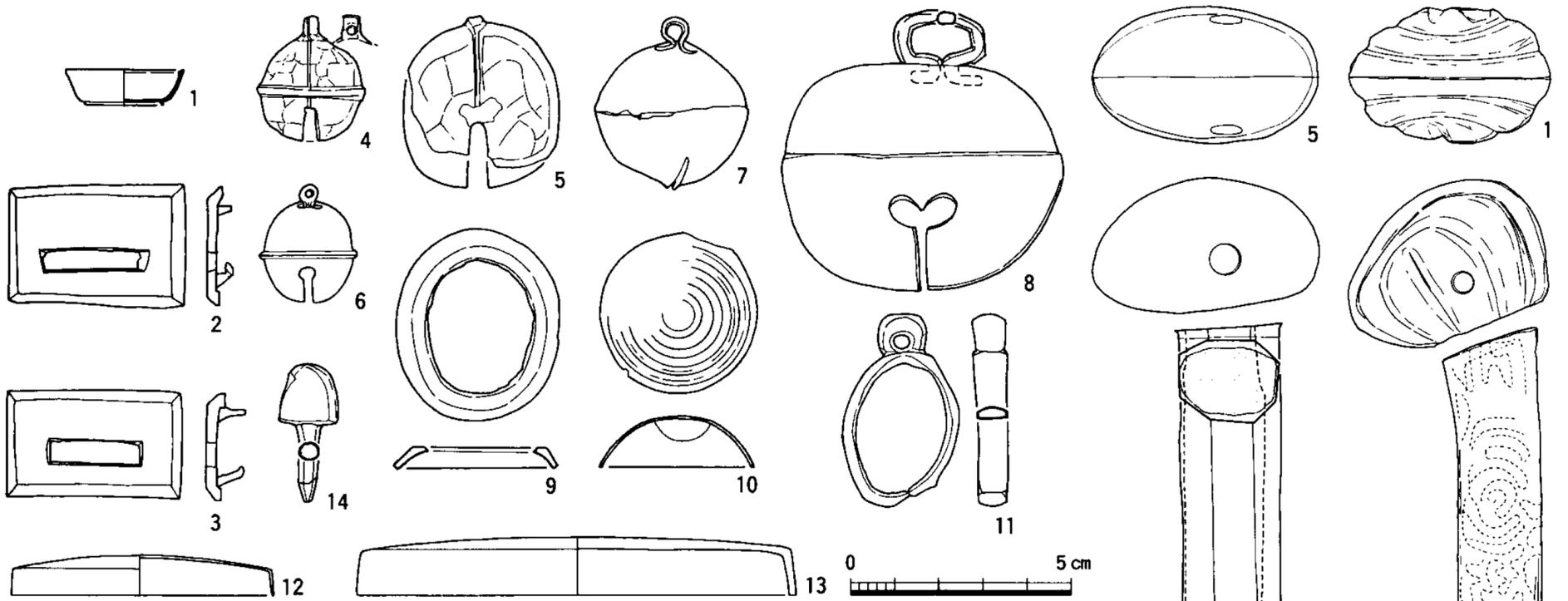


図36 金属製遺物の実測図 1 : 2

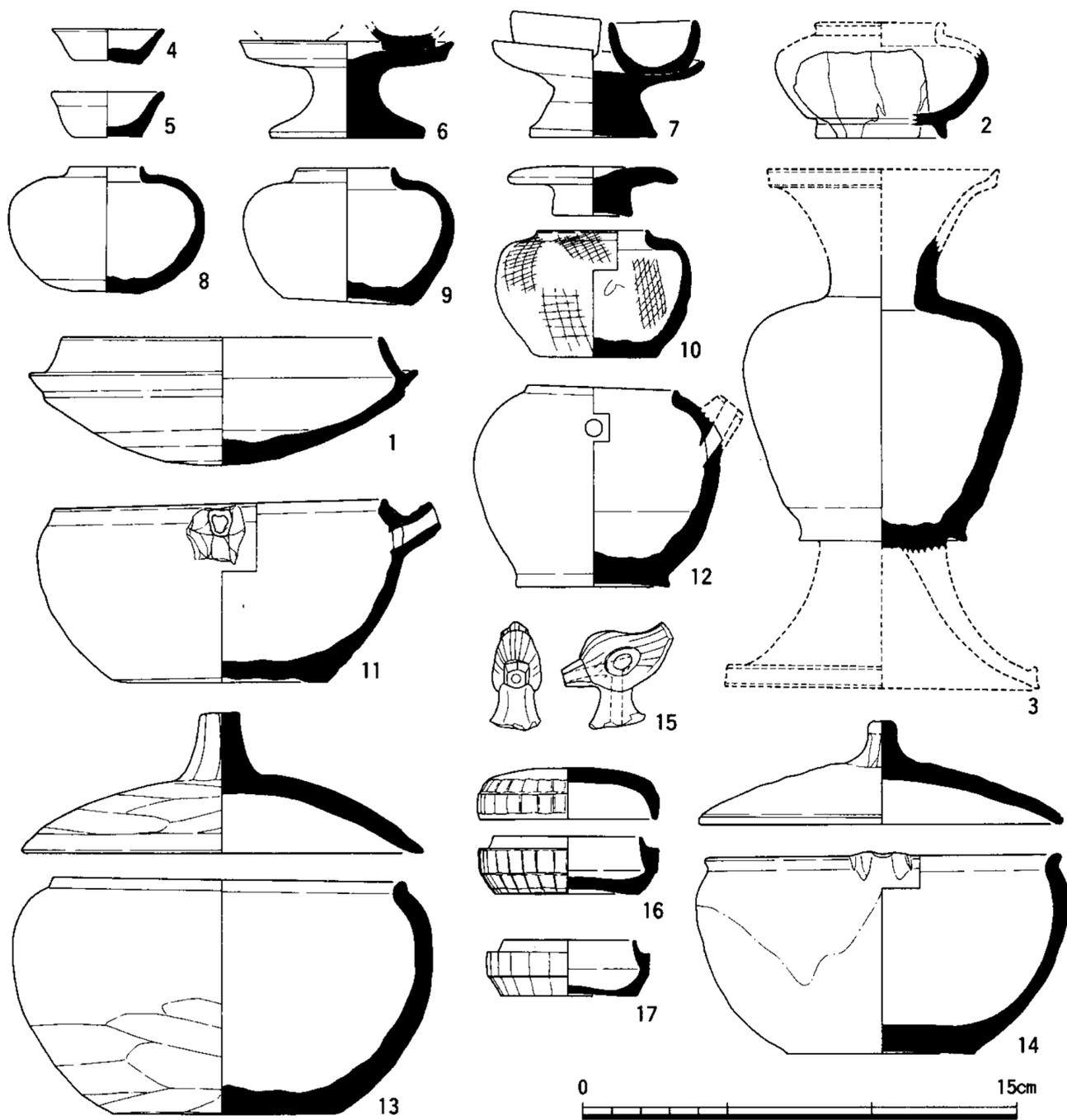


図37 土器類の実測図 1 : 3

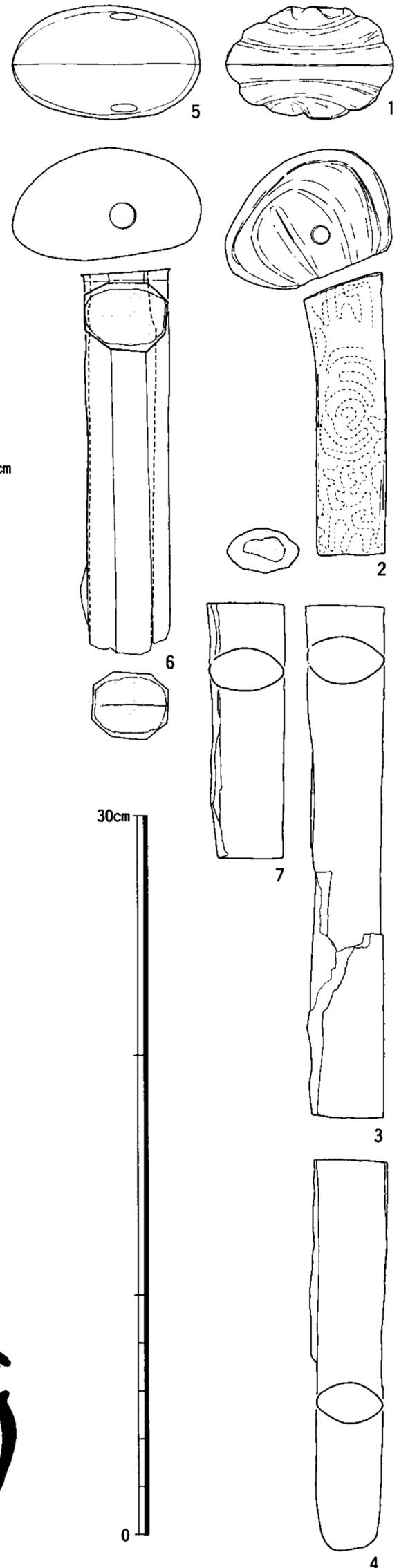


図38 頭椎大刀の実測図 1 : 3